

# 安心できる地域づくりへ 新たな一歩



甘夏色の外観。「めぐみの里」の文字の下に、小さいが無茶々園のロゴマークも

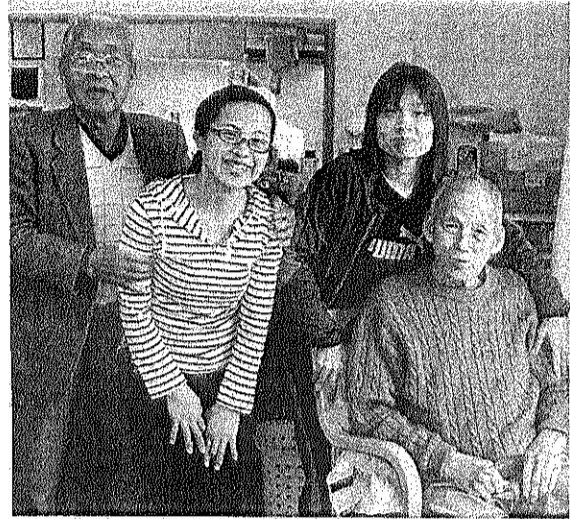
## 柑橘農家のグループ 無茶々園がデイと老人ホーム

柑橘類などの有機農業の流通と都市交流などで、地域づくりをしている無茶々園(労働連加盟、愛媛県西予市明浜町)は、地域で安心して暮らせるために子育て、高齢者支援、生活支援、生きがいづくりなどの取り組みを進めています。2月3日には有料老人ホームとデイサービス「めぐみの里」(運営「無茶々園」一員、株式会社百笑一輝)を開始。2カ月で1日の利用定員を30人に増やし、利用者や家族に寄り添った介護に取り組んでいます。(本紙 本田真智子)

### 子どもから高齢者までの拠点を

めぐみの里は、甘夏色の外観。広いスロープから中に入ると、玄関もデイルーム、廊下、お風呂、何もかもが車いすでの利用を考慮して、ゆったりと造られています。デイの利用者が、洗濯物を置いたり、ゲームに興じたり、昼寝をしたりと、思い思いに過ごし、のんびりとした雰囲気です。2階の老人ホームは8室あり、各部屋の入り口の床とカーテンの色を揃えて、入居者が部屋を間違えないように配慮。また、入り口と廊下は広くして、寝たきりの方がベッドでも移動できるようにしています。

めぐみの里は、甘夏色の外観。広いスロープから中に入ると、玄関もデイルーム、廊下、お風呂、何もかもが車いすでの利用を考慮して、ゆったりと造られています。デイの利用者が、洗濯物を置いたり、ゲームに興じたり、昼寝をしたりと、思い思いに過ごし、のんびりとした雰囲気です。2階の老人ホームは8室あり、各部屋の入り口の床とカーテンの色を揃えて、入居者が部屋を間違えないように配慮。また、入り口と廊下は広くして、寝たきりの方がベッドでも移動できるようにしています。



## 百笑一輝「めぐみの里」 清家真知子さんに聞く

### 介護保険の理念大切に 「困った人こそ受け入れる」

「私はこの地域出身で、ずっとおばちゃんたちの内職の、花火のクラッカーの集配をしていた。おばちゃんたちが90何歳になっても、私たちの入る施設を造ってくれ、どうにかしてくれという電話をもらうようになった」と、話すのは清家真知子さん。めぐみの里の管理者兼生活相談員です。

左から利用者の水谷正さん、職員村上さよさん、清家真知子さん、利用者の濱田貴さん

清家さんは15年前に無茶々園が行ったヘルパー講座の修了生で、介護保険が始まってから、ずっと介護の仕事に携わっています。介護施設で働くから、クラッカーの集配をやめると言つと、「おばちゃんたちに、これに携わっています。」

「営利企業は最初はいいのだけれど、やっていくうちに儲けにならない人は受け入れるな、となる。職員も楽な人の面倒を見たいとなつていく。認知症の人、暴力を振るう人、お金を払えない人などは受け入れるなど厳しく言われたことも。」

ある施設では、利用料を払えない人がいます。所長から「なんで

うな人に入ってもらいたいのかイメージしていたので、設計から携わり、各手続もほとんど済ませていきました。職員は15人。清家さんと同じ考え方の人たちで、「大変な人を助けた」と、今まで働いてきた人もいます。

その後、その人の娘さんから「あの時はありがたう」と言ってくれました。心に寄り添えたからだと感じたそうです。

「困った人こそ受け入れる」と、清家さんは、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。施設では、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。

「困った人こそ受け入れる」と、清家さんは、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。施設では、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。

「困った人こそ受け入れる」と、清家さんは、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。施設では、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。

「困った人こそ受け入れる」と、清家さんは、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。施設では、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。

「困った人こそ受け入れる」と、清家さんは、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。施設では、困った人こそ受け入れるという理念を大切にしています。

たので、利用を断らなために30人に定員を変更。老人ホームは、定員の8人が入居。入居者に昼間、デイを使ってもらうことで介護保険収入を得、国民年金プラス2、3万円で利用できるように設計しています。

無茶々園は2020年ビジョンをつくり、「21世紀型運命共同体を創造しよう! 絆の再生、子どもたちが誇れる地域に」をスローガンに様々な取り組みをしていきます。

「でも、それはやはりおかしい。また、暴れる人が家族が見えないから、デイなどで受け入れなければいけない。そういうことを福祉の現場で働いている者が分かって、支えないとどうするのか」と清家さんは憤り、その施設を辞めました。

以前の施設でのこと。暴力的な動作で「帰る、帰る」と騒ぐ男性に、何を思っているのか聞いてみました。「どこに行きたいの?」「宇和島」。清家さんはその人を乗せて、宇和島まで車を走らせました。

また、働く場ができて若い人が少し増え、地域の活性化にもなっているようです。地域の人が気軽に飲んできても、老人ホームに入居している友人に会いに来るのも、地元の良い安さです。



ゆったりとしたデイルーム。職員は15人。清家さんと同じ考え方の人たちで、「大変な人を助けた」と、今まで働いてきた人もいます。

開所を聞きつけたアマネジャーや地域包括支援センター、つながりのある家族などから「利用したい」と連絡が入り、開始時にはほぼ1日の利用定員に。

# 生きがい持って最期まで暮らせる地域に

愛媛

愛媛県西予市明浜町で有機農業などを通じた地域づくりをしている無茶々園（日本労協連加盟）は、11月8日にデイサービスセンター・有料老人ホーム「海里」を開所しました。運営は無茶々園の介護部門の法人、(株)百笑一輝。2014年2月に立ち上げた「めぐみの里」に続き、2カ所目です。（百笑一輝地域福祉担当課長 前田寛明）

## 自宅のように過ごせる施設を

# 無茶々園が2カ所目の福祉施設 デイサービスセンター「海里」 ・有料老人ホーム

「海里」は明浜の前に広がる宇和海をイメージして命名。

本造2階建てで、1階がデイサービス（定員25名）、2階は有料老人ホーム（9名）。「めぐみの里」と道を挟んで向かい合っています。

1階は一部を吹き抜けにし、大きめの窓で開放感のある明るい雰囲気。2階は廊下の天井や窓の位置を高くして採光にも工夫。床やトイレ、浴室な

ども様々な工夫を凝らし、利用者の利便性を考えながら、自宅と同じようにリラックスして過ごせるよう配慮しました。定休日は毎週火曜。日曜が休みのめぐみの里と重ならないようにしました。

「家がある地域に施設ができるならそこで働きたい」という隣の介護施設で働いていた介護職員や、施設長の清家真知子さんと「一緒に働きたい」と希望する介護職員らが集まりました。

## 共に生き、共に働く

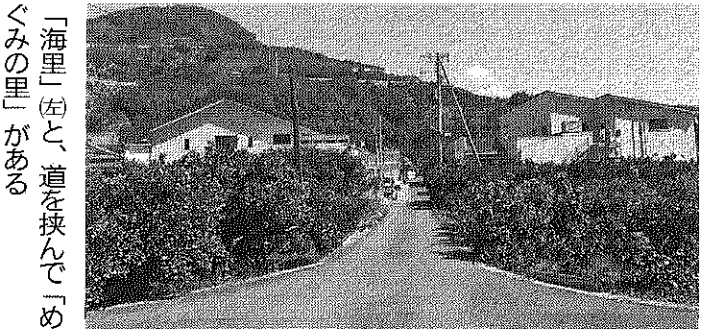
開所して日も浅く、日々試行錯誤の連続ですが、生きがいと役割

無茶々園は、明浜地域の5年後を見越した2020年ビジョンを策定し、明浜町内の4地域に1カ所ずつ子どもから高齢者まで、安心して暮らし続けられる地域福祉事業所をつくらんと計画しています。

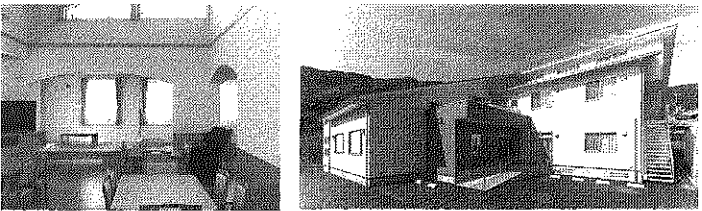
また、介護保険対応事業として訪問介護や移送サービスなどの事業も構想。さらに、狩浜地区に立ち上げた元津地区の住民を対象にした介護職員初任者研修も計画中です。

「海里」の全景

明浜町の人口は4000人。高齢化率は48・31％。全国平均の23％に比べ約2倍高く、「共に生きる・共に働く・自宅で最期を迎える」（百笑一輝の理念）を実現できるよう取り組みを進めています。



「海里」(左)と、道を挟んで「めぐみの里」がある



明るい機能訓練室



「海里」の上棟式で餅まき。めぐみの里の利用者、地域の方などが集まった